

## KUBIC 受賞報告

第 19 期 長谷川 鈴音 山崎 清乃

### ◆KUBIC とは？

KUBIC とは、関西大学が主催する、「学生の力」をキャッチ・フレーズとして、若い力を発信するためのビジネスプラン・コンペティションです。この KUBIC には、企業から指定されたテーマに沿ったビジネスプランを応募する、企業テーマ部門と、自由な発想で考えたビジネスプランを応募する、自由応募部門が設けられています。また、企業から指定されたテーマに沿ったビジネスプランであっても、予算計画書を作成すれば、そのプランを企業テーマ部門と自由応募部門の双方に応募することが可能です。

今年第 18 期生有志 1 チーム、第 19 期有志 3 チームが参加し、企業テーマ部門に 4 案を応募しました。そして、第 19 期有志 1 チーム（鈴木、長谷川、丸山）が、多くのビジネスプラン案の中から厳正な審査を経て、優秀賞を受賞し、第 19 期有志 1 チーム（喜多村、富江、三浦）が、企業賞を受賞いたしました。

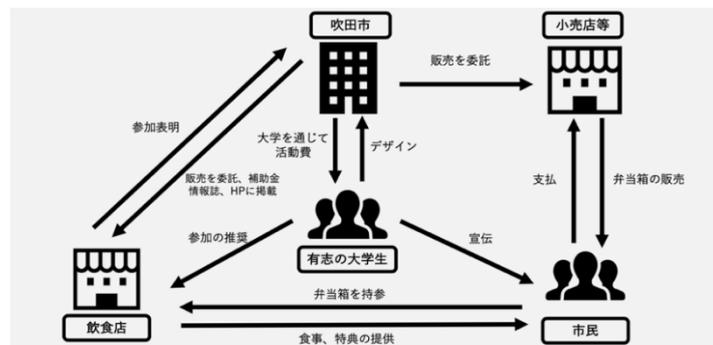
### ◆プランの概要

・出題企業：大阪府吹田市

出題テーマ：市長、これからの社会にはこれが必要なんです～社会を変える新しい公共ビジネス～※君たちの自由な発想求ム!!

提案プラン：お腹、すいたん？～使い捨て容器の代わりに弁当箱を～

優秀賞を受賞した第 19 期生有志チームが提案したビジネスプランは、吹田市の大学生が中心となり、吹田市の飲食店と協力して市民にテイクアウト専用、統一規格の弁当箱を利用することを推奨し、吹田市民の環境問題に対する意識を向上させるプランです。本プランの最終目的は、吹田市の使い捨てプラスチック容器の消費量を削減することです。吹田市は、テイクアウト専用の弁当箱を市民に向けて提案し、本施策への参加を表明した飲食店の情報を、吹田市の HP に掲載します。そして、市民は、飲食店にその弁当箱を持参することで、テイクアウトサービスを受けることができるという仕組みになっています。



ビジネスプランの概要図

#### ◆プランの概要

・出題企業：大阪府吹田市

出題テーマ：市長，これからの社会にはこれが必要なんです～社会を変える新しい公共ビジネス～※君たちの自由な発想求ム!!

提案プラン：歩けスイタ～市民は，激歩した～

企業賞を受賞した第19期生有志チームが提案したビジネスプランは、吹田市民がウォーキングを行って歩数をポイントとして貯蓄し、吹田市民全体から募った地域づくり案のうち実現を強く希望する案に、貯蓄したポイントをクラウドファンディングの要領で投じるプランです。ウォーキングは特別なスキルを要さないため、吹田市民は、地域づくりの活動に、気軽に参加できるようになります。加えて、吹田市民はウォーキングを行う機会が増加し、コロナ禍の運動不足解消も図ることができます。本施策が実現した暁には、吹田市民は、さながら「走れメロス」のメロスのように、「自分以外の他の吹田市民のために」という思いをもって吹田市内全体を歩きだし、吹田市は、より豊かで健康的な街に変貌を遂げるでしょう。

#### ◆プランの概要

・出題企業：ハウス食品

出題テーマ：カレーに関する新事業の提案

提案プラン：#初めてのカレー記念日

3組目の第19期生有志チームが提案したビジネスプランは、子どもが初めてカレーを食べた日を記録に残すプランです。子どもが生まれて初めてカレーを食べた日は、素晴らしい記念日になるにもかかわらず、ほとんどの親子の記憶には残っていません。そこで、本企画は、その日を親子の記憶に残るようにし、共に祝い、喜びを共有することで、まさに「食を通じて、家庭の幸せに役立つ」というハウス食品の理念を体現します。ハウス食品は、親世代の消費者に本企画への応募と Come on House への会員登録をしてもらい、バーモントカレーと、子が生まれて初めてカレーを食べたときの記念写真を飾るためのフォトフレームをプレゼントします。そして、ハウス食品は、消費者に、子が生まれて初めてカレーを食べている写真とそのエピソードを、「#初めてのカレー記念日」のハッシュタグをつけ Instagram に投稿してもらい、その投稿を当該サイトへ掲載するという仕組みになっています。

#### ◆活動後記

私たちが、ビジネスコンテストに取り組んだのは、小野ゼミに入ってからちょうど1ヶ月が経った頃、まだまだ小野ゼミ生としての生活に慣れていない頃でした。本年度の小野ゼミが始まった頃、我々第19期生は、毎年のようにビジコンで入賞している先輩方に憧れ、「ビジネスコンテストを絶対にやりたい!」と全員の意見が一致し、意気込みは満点の状態です。

しかし、活動は思うようには進みませんでした。核となるアイデアが、うまく出ないのです。やっと出た良いアイデアは、既に他のビジコンで優秀賞を取っていたり...ということが続きました(ということはアイデアの質はよかったのか?!)。そして、私たちの予想以上に苦労したのが、アイデアをフォーマット

の資料に書き起こしていく作業でした。200～400字で、アイデアを説明したり、類似サービスとの違いや社会的な貢献等をわかりやすく書き記したりしていく作業は、私たちが当初考えていた、「文字数は少ないし、アイデアさえ固まったらすぐに終わるだろう」という甘い見込みを早々に裏切り、締切直前まで頭を悩ませることになりました。提出締め切り日にあったサブゼミでは、先輩方と小野先生に全面的にお手伝いいただき、なんとか締め切りまでに資料を完成させることができました。本当に感謝しています。

そして、本選会への出場が決まった「おなかすいたし」班は、ビジコンの提出から約3ヶ月が経った9月頃に、もう一度、自分達のアイデアと向き合うことになりました。10分のプレゼンで我々のアイデアの魅力を伝えられるよう、何度も小野先生にプレゼンを見ていただき、たくさんのご意見をいただきました。また、特にプレゼン資料において、先輩方にもたくさんアドバイスをいただき、小野ゼミの「美しい資料を作る」という伝統をしっかりと教わりました。また、本選会の前日には、同期がzoomに駆けつけ、一緒に質問を予想してくれました。結果は、最優秀賞・準優秀賞を取れず、残念な結果となってしまいました。本選会に出場し、審査員の方と意見を交わしたこの経験を糧にして、まだ見ぬ来年の後輩をしっかりサポートしたいと思います。

「おなかすいたし」班だけでなく、全ての班が、自分自身に誇りを持つことができる、素晴らしいビジネスプランを提案することができたと自負しています。そのようなビジネスプランを提案することは、私たちだけの力では到底できませんでした。私たちに多くの時間を割いていただき、たくさんご指導いただいた小野先生、KUBICの経験者として多くのことを教えていただいた大学院生の先輩方、ビジネスプランから本選会用のパワーポイントの資料まで、とても長時間にわたって、一番近くで私たちを見守ってくださった第18期の先輩方、ご指導いただいた全ての方に感謝申し上げます。改めまして、本当にありがとうございました。



おなかすいたしチームの受賞記念写真  
(左から鈴木、長谷川、丸山)